

令和 2 年笛吹市議会第 3 回定例会

令和 2 年笛吹市議会第 3 回定例会の提出議案の説明に先立ち、職員の不祥事につきまして、御報告とお詫びを申し上げます。

8 月 28 日に市の職員が げんじゅうけんぞうぶつとうほうかみすい 現 住 建 造 物 等 放 火 未 遂 と 住 居 侵 入 の 疑 い で 逮 捕 さ れ ま し た 。

逮捕された職員については、現在、警察において取調べがなされているところですが、今後、警察の捜査の進展を注視し、その状況を踏まえながら、厳正に対処してまいりたいと考えております。

このような不祥事が発生しましたことは、市長として極めて重く受け止めており、被害を受けられた方をはじめ、市民の皆様に対しまして深くお詫び申し上げます。

今後は、職員のコミュニケーション能力や管理職のマネジメント能力の向上を図り、職員の小さな行動の変化などを見逃さない職場環境の確保に努め、二度とこのような事態が起これぬよう、職員一丸となって職務に精励してまいる所存です。

改めまして、令和 2 年笛吹市議会第 3 回定例会の開会に当たり、提出した案件につきまして、その概要を御説明申し上げますとともに、前回定例会以降の行政運営の状況について申し述べ、議員各位並びに市民の皆様にご理解を賜りたいと存じます。

はじめに、「新型コロナウイルス感染症対策」についてです。

新型コロナウイルス感染拡大が長期化していることなどを踏まえ、市独自の緊急支援策として、国の「特別定額給付金」の支給対象とならない新生児に対して、10 万円を支給する「新生児特別定額給付金事業」は、7 月 29 日から受け付けを始め、9 月 4 日時点において、123 件の申請がありました。

また、新型コロナウイルス感染症とインフルエンザが同時期に感染拡大することによる医療現場の混乱を防ぐため、学校や保育所で集団生活を送っている年齢層に対し、インフルエンザの予防接種の費用を助成する「子どものインフルエンザ予防接種事業」については、対象となる皆様が 10 月から予防接種費の助成が受けられるよう、準備を進めています。

なお、これまでに国の緊急経済対策として市が実施した「特別定額給付金事業」は、8 月 17 日に申請期間が終了し、申請件数 29,584 件、申請割合 99.7%となりました。

また、市独自の支援策である、学費や生活費に困窮している大学生などを経済的に支援するための「大学生学業継続支援事業」は、8 月 31 日に申請期間が終了し、申請件数 1,853 件、高校生世代を応援するため、高校生世代一人につき 1 万円を支給する「高校生等共になんばろう応援事業」は、給付件数 1,930 件となりました。

一方、8月7日に長崎知事は、山梨県において、新型コロナウイルス感染症の第2波を迎えたとし、県民に対し改めて感染拡大防止の取組の強化を要請しました。現在も県内で新規感染者が相次いで確認されている状況であることから、本市においても、緊張感をもって感染症対策に努めてまいります。

また、これまで、市内外を問わず、多数の企業や個人の皆様から、マスク、消毒液、フェイスシールドなどの物品、さらに、新型コロナウイルス感染症対策に充てて欲しいと、多額の御寄附をいただいております。

御寄附いただきました物品及び寄附金は、有効に活用させていただくとともに、皆様からの御支援が市民の皆様の安心につながるよう、今後も必要な施策に取り組んでまいります。皆様からの心温まる御支援について、ここに改めて御礼申し上げます。

次に、笛吹みんなの広場整備工事についてです。

7月22日に中村議長、地元市議会議員、広場が所在する行政区の区長の御出席をいただき、工事の安全を祈願するため、起工式を執り行いました。

今後は、来年6月の完成に向け工事を進めるとともに、さまざまなイベントが開催できる緑豊かな公園として、市民の皆様をはじめ、市内外の観光事業者などにも大いに活用していただけるよう考慮しながら設置管理条例制定に向けた準備を進めていきます。

次に、県中学校総合体育大会の結果についてです。

県中学校総合体育大会が7月23日から8月10日までの間、開催され、本市の中学生が躍動する姿が見られました。

団体戦では、石和中学校のサッカー及び陸上男子共通400メートルリレー、春日居中学校の陸上女子1年400メートルリレーが優勝しました。

個人戦では、石和中学校の陸上、卓球、水泳、御坂中学校の弓道、一宮中学校の陸上、空手、浅川中学校の水泳、合わせて11競技で優勝しました。その他、上位入賞が多数あり、優秀な成績を収めました。

次に、川中島合戦戦国絵巻の開催についてです。

11月1日に開催予定の「川中島合戦戦国絵巻」については、新型コロナウイルスの感染拡大防止策を講じた上で開催できるよう、準備を進めているところです。

開催の可否については、新型コロナウイルスの感染が大都市圏を中心に拡大していることなどを踏まえ、今後の状況を注視しながら最終的な判断をしたいと考えています。

次に、「バイ・ふじのくに」キャンペーンについてです。

新型コロナウイルス感染症の影響は、県下の観光産業にも、これまでに例を見ないほど甚

大な影響を及ぼしています。このような状況の中で、山梨県と静岡県では、共に支えあう「バイ・ふじのくに」キャンペーンを行っており、人及び物の交流を積極的に推進しています。

本市では、「バイ・ふじのくに」キャンペーンの一環として、8月1日に沼津市において、観光の誘客とフルーツの販売を促進するための宣伝活動を実施するとともに、国の「GO TO トラベルキャンペーン」と、市内の観光農園を支援するための「観光農園特典キャンペーン」をセットにした、石和温泉宿泊特別企画の折込チラシを静岡全県で配布し、多くのお問い合わせをいただいています。

次に農産物消費拡大宣伝事業についてです。

今年度も7月に大阪本場市場と東京大田市場で実施しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響等により、宣伝イベントの規模が縮小され、市場関係者による桃の試食等もできず、例年と同様のPR活動ができませんでした。

そのような中においても、農家の皆様が、丹精込めて育て上げた旬の桃やぶどうを多くの市場関係者や消費者に知っていただくため、新しい消費宣伝用ポスターを作成するとともに、桃やぶどうが実るまでの農家の皆様の御苦労の様子や光センサーで糖度を計測し、箱詰め、出荷される様子を紹介する動画を新たに作成して、東京大田市場及び大阪本場市場の仲卸業者等へ配布するなど、例年とはちがった形でのPR活動を行いました。

次にぶどうの晩腐病の被害状況についてです。

長梅雨の影響で、市内全域でぶどうの晩腐病が発生しています。この病気は、糖度が上がるほど病状が進行するため、今後も、被害が広がるおそれがあります。

品種別では、巨峰やピオーネなど黒系のぶどうで被害が多く、比較的病気に強いシャインマスカットにも病状が出ていることから、生産農家の収益に大きな影響が出るのが懸念されます。

今後は、被害状況を確認しながら、生産農家への支援など対策の検討をしていきます。

次に、モモせん孔細菌病対策に関する国への要望についてです。

8月7日に、桃の主要産地である山梨県、福島県、長野県及び和歌山県の知事並びに、私が会長を務めています日本桃産地協議会会長の連名で、モモせん孔細菌病対策に関する要望書を江藤農林水産大臣に提出し、防除効果に優れた新しい農薬の登録や防除に関する補助事業の財源確保、総合的な防除体系の確立やせん孔細菌病に強い品種の育成などを要望しました。

江藤農林水産大臣からは、病気にかかった枝、葉の除去作業に関する労働賃金の補助などを国の補正予算に盛り込むなど、今後の対応について、前向きな回答をいただいたところです。

次に、乳幼児及び成人の集団健診の実施についてです。

新型コロナウイルスの感染拡大により、年度当初から実施を見合わせていましたが、感染予防対策を講じるため、集団検診の1回あたりの対象者に上限を設けるとともに、健康診査対象者の一部を医療機関による個別健診に変更して、実施することとしました。

乳幼児の4か月健診は、6月から個別健診を実施し、法律で定められている1歳6か月と3歳の健診は、7月から集団検診を実施しています。

また、成人の健診については、39歳以下と社会保険に加入されている方は、医療機関による個別健診とし、その他の方は集団検診として、7月から来年1月にかけて、各地域で順次実施していきます。

次に、「わが町の八月十五日展」についてです。

「戦時中の家族のつながり」をテーマに、春日居郷土館で8月5日から31日まで開催しました。

今回は、戦時中に家族やふるさとを思い書かれた手紙や当時の状況を伝える資料などから、家族のつながりや平和の大切さを考えていただくような企画としました。

御来場いただいた皆様には、戦時中における家族のつながりについて、思いを致す貴重な時間になったことと思います。

次に、「ナンジャモンジャ記念碑」の寄贈についてです。

ナンジャモンジャの木として、市民の皆様^{りょうめんひのき}に親しまれてきた鶯宿峠の両面桧は、平成30年の台風24号で倒れ、残念ながら枯死してしまいました。中央森林組合が「歴史ある木を後世に伝えたい」との地域の皆様の要望に応え、記念碑に加工し、本市に寄贈されました。

この記念碑を市民窓口館正面入口付近に設置いたしましたので、多くの市民の皆様^{にせいぼく}に御覧いただきたいと思ひます。

また、ナンジャモンジャの木の枝を挿し木にして育てている二世木を、5年後には鶯宿峠に植樹する予定とのことです。

令和2年9月7日

笛吹市長 山下 政樹